

広報柏谷

発行：柏谷区広報委員会



第4休憩所にて R1. 7. 13



八坂神社祭典

7月7日の遷座祭で始まった八坂神社の祭典は、連夜のお涼みを経て、7月13日(土)、祭の最後を飾る区内御神輿渡御が、今年も盛大に行われました。

休憩所の湯くトピアかなみでは、記念の集合写真を撮りました。担ぎ手の皆さん、当番組の皆さん、ありがとうございました。

あの頃の柏谷

右の写真は、昭和53年7月13日に行われた八坂神社祭典での御神輿渡御の様子を撮影したものです。この日、お天王さんの御神輿が70年振りに復活しました。神輿の復活を祝う祭の熱気が感じられる写真です。

この時の当番組は、13組と14組で、お涼みは堤ヶ池近くにある当番組地内の子の神(ねのかみ)で行われました。この年以降、御神輿は毎年行われ、今年も盛大に区内を練り歩きました。



瑞穂のくにのものがたり

日枝神社宮司 泉明寺みずほ

尾籠(びろう)な話で恐縮だが、というフレーズ。かの三島由紀夫はプライバシーの極みである自身の日記をしたためるのにも、何かに恐縮してこのような書き出しを使っていたと聞くが、今日はこんなにも公共性あふれる場において、ピロウ話から始めようと思う。ずばり、トイレの話である。トイレは快適が望ましい。とはいえ、どうにも我慢がならない時は致し方なくどんな風情であろうと所要を済まさなければならない場合もある。私は長らくガールスカウトに在籍しているので割と対応が柔軟である。野外開放型トイレくらい経験済みだ。ポイントは場所の選択を慎重に行う事。溢れる欲求に飲み込まれず、礼節をもって探すことが大切だ。周りとの隔絶に茂みは有効であるが、しゃがむ場所に留意しないと、予期せぬ枝や草に柔らかな尻が襲われることになったりする。持ち物は、手やその他の部位を洗うための水、埋めるためのスコップ。紙の使用は厳禁である。因みに夜間の場合は額に懐中電灯を取り付けて臨みたい。さてアジアの国々では、いまだに公衆トイレなのに個室の扉がなかったり、そもそも遮る壁さえなかったりする所もある。こちらも体験済みだ。もともと、古代ローマにおいて、トイレは至極オープンだったようだ。イタリアのポンペイに残っているトイレの遺跡は、長いベンチ状である。等間隔に穴が開いており、そこに腰かけて用を足す。お

隣さんとの距離も近いので、会話もはずんだであろう。お互いの健康状態も分かち合えそうだ。しかも水洗式であったというから更に驚く。

日本におけるトイレは、古より日本人の精神性を表す場所である。寺に備えたトイレは、時に僧が己と向き合う所であり、哲学的な問答を一人で行う場所である。呼び名においても、例えば「はばかり」という別名。字の通り人目を憚るべき行為だからであり、恥じらいを強くもつ日本人らしい。「ご不浄」もしかり。日本人は、特に穢れを忌み嫌うため、あえてこのように呼んで、日常の中の清浄と不浄の区別をつけたと考えられる。

ブルーノ・タウト(1880～1938 ドイツ人建築家)は日本に滞在した4年弱の間で、伊勢神宮や桂離宮、そして農家の人々の暮らしぶりの中にまで、日本美を見出し、世界に伝えている。その中でも

「日本家屋は常に清潔を保っている点にかけて世界無比。清潔は日本のどんな貧しい住宅にもある。」という称賛はとても誇らしい。清潔、清浄に努めることこそ私たち日本人の美意識の集約ではないか

と思う。さて、ブルーノ風に申し上げるならば「日本の美しく設備の整ったトイレは世界無比」である。自動で、蓋が開く、尻が洗われる、心地よい風で乾かされる。川のせせらぎのBGM付き。もはやトイレは癒しの場所だ。来年の東京オリンピック・パラリンピックでは大勢の外国人旅行客を迎えるが、ジャパニーズトイレを体験した外国客たちは、一様に感心感嘆するに違いない。



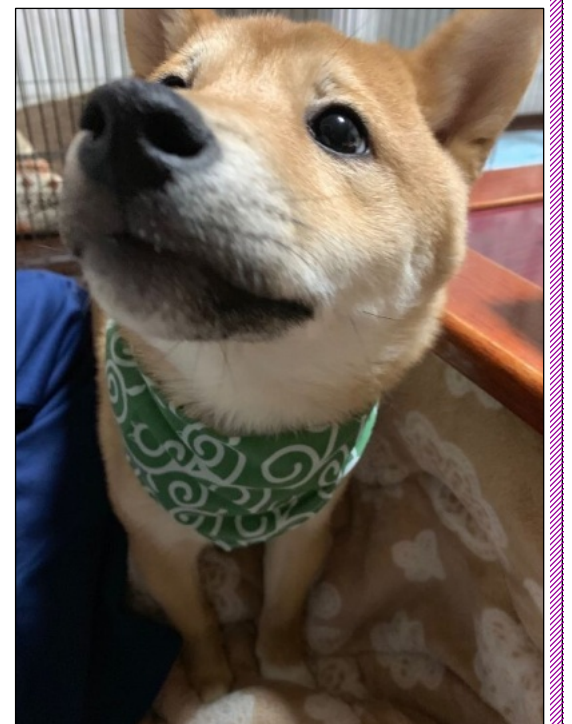
柏谷のわんこ

～ 柏谷のかわいいわんこを紹介します～



名前：こたろう
犬種：柴犬
性別：男の子
年齢：もうじき1歳
住んでるところ：8組の久保田家
特徴：くるくるっと右巻きに巻かれた尻尾がチャームポイント
散歩：定番は、「役場一周コース」と「柏谷8組内パトロール(犬のおまわりさん)コース」です。

その他：久保田家の三男坊として欠かせない家族の一員です。(ちなみに、長男は人間ですが、次男はミドリガメです。)



風祭



初の日枝神社の今年度最大の祭典である風祭が、9月10日に行われ、例年より大々的に行われ、祭の続きは、11月10日の祭典に引き継がれます。2月17日の祭典は、元引祭と続きます。

「広報柏谷」では、皆さんのご意見、ご要望、ご要望のペットなど、何でも集めています。詳しくはお近くの役員、又は、公民館の連絡ボックスまで。

編集後記

ろい信からいを報記ら良あ実にしまは思お`知誌念とおいは見今くす今うそつ創すこう写写`覚し回お。後よ`して刊べろと真真公えたは願皆もうとてものきで思なで民のいさ続にい、らき第`いのす館あ`八しまけいうあつ10`紹で。のるあ坂まのてき当わてか号広介、当会の方の神社す。ごいま初よ関けと報し皆時議いの柏祭支きせのく心とな柏まの室のの祭援たん目ばをなり谷`た。熱のと谷典ごいが的参持つま`に。気壁のと思ーを協と、は加つたしも。もをに思ーを力思情なして一た今見感飾いまをつ報かても柏。回てじっす。よて発なもら谷広でもるて。真に